

研究ノート

アタル語（泰雅語）の 寒溪方言に入った日本語

——台湾原住民言語能力試験問題における——

安 部 清 哉
土 田 滋
新 居 田 純 野

要 旨

台湾の原住民言語の一つ、アタル語（タイアル語、泰雅語）の中の1方言である寒溪方言の中に、少なくない日本語が取り込まれている。それは一部の日本語語彙があたかも外来語のように1語レベルで文の中に現れるという程度のものではなく、語彙は日本語、アタル語、中国語などの混合、文法は基本的に日本語、そしてこれを唯一の言語として育った世代もいるという意味でクリオールである。そのアタル語は、台湾の行政院原住民族委員会の公式ウェブサイトで紹介されているアタル語の標準的基本文型と基礎語彙に見ることができる。本稿では、海外における日本語の状況報告として、また、日本語をベースとしたクリオールである可能性もある言語資料として、その状況を公式ウェブサイトから紹介する。なお、サイト閲覧は以下の通り。

○サイト閲覧→<http://140.122.109.156/new/>

（あるいは次も可能 <http://iel.apc.gov.tw/>）

「九十六学年度原住民学生升学優待取得文化及語言能力証明考試之試題範例及練習題計畫」→左の選択肢→「族語練習区」の中の2つのうち「練習題暨解答档案下載」→「泰雅語」の中の「宜蘭寒溪泰雅語 下載」を選択する。

1 はじめに

本稿で紹介するのは、台湾の1原住民(「原住民」は台湾政府の公式用語による)の言語である、アタヤル語(タイヤル語, 泰雅語)の1方言の中に取り入れられた日本語の状況である⁽¹⁾。

その中の日本語は、いま一部を取り上げれば、まず、語彙では、次のようなものである。

Anta (あなた) kore (これ) are (あれ) ikura (いくら)
asta (あした) iku (行く) okiru (起きる) itai (痛い)

また、文では、次のような状況である。

anta no namay ga dare? (あんたのなまえはだれ?)

(この ga はアタヤル語)

anta kasa moti sta? (あんた、傘、持ってきた?)

tabe bang no mami. (食べ 晩 の mami(飯)=晩御飯を食べる)

最後の文例は、文法がアタヤル語で語彙は日本語である。全体に文例を見ると、日本語が外来語として一部に取り入れられているという段階を超えた状況のようにも見える。

今回本稿では、その日本語とアタヤル語の混在の様子を、まず語彙を中心に報告する。本稿で紹介するアタヤル語の寒溪方言の資料は、われわれのサオ語研究(付記参照)におけるサオ語の資料収集の過程で、土田滋が見出したものである⁽²⁾。

なお、台湾のアタヤル語の寒溪方言に関する報告には、真田信治・簡月真 2007 がある。これは、2007 年 5 月 27 日に学会発表されたものである。そこでは、2007 年 2・3 月の寒溪村における臨地調査と、次の寒溪方言の教科書がデータとして使用されている。

「2006 年にアタヤル語の一方言(寒溪アタヤル語)として公開された教科書 3 冊(「国民中小学九年一貫課程原住民族語学習手冊 寒溪泰雅語学習手冊第一, 第二, 第三階」)⁽³⁾

土田滋が、前述のウェブサイトにおける寒溪方言の日本語を見出したのが、2007 年 4 月 29 日であり⁽²⁾、真田・簡 2007 には、上記の教科書のみが指摘され、そこではまだウェブサイト上における寒溪方言の指摘はないので、両氏の日本語学会で

の口頭発表が公的には先行するが、ここに報告することとする(補注1)。

2 アタヤル語寒溪村およびその周辺地域における

日本語ベースのクリオール語について

(1) 背景

この2, 3年ほど、台湾中部にある大葉大学で日本語を教えるかたわら日月潭で話されているサオ語(Thao)の調査をしている新居田(台湾・大葉大学助理教授)と、安部(学習院大学・教授)のお二人の仕事をお手伝いしている。土田が台湾原住民諸語を専門としている関係である。

サオ語の言語資料を探し求めて、あちらこちらネットサーフィンしているとき、偶然、原住民族委員会のホームページに「九十六学年度原住民学生升学優待取得文化及語言能力証明考試之試題範例及練習題計畫」という長いタイトルのところに、43 にのぼる台湾原住民諸語の各方言についての基礎語彙と日常会話資料があることに気がついた。2007年4月末のことだった。

サオ語の部分を見るついでに、いろいろな言語のあれこれの方言を覗いてみると、そのなかにとんでもない言語を見つけた。「泰雅語寒溪方言」である。附表に見られるとおり、それは単語は日本語、アタヤル語、それにわずかの中国語が混ざり、そして語順も日本語だがとところどころアタヤル語的な語順が現れる、という奇怪な言語であった。

はじめ、それはただの間違いだと思った。これらの語彙や日常会話のテキストを作った人たちが、ついつい勘違いして、アタヤル語の単語の代わりに日本語を入れてしまったのだろう。これは早く原住民委員会に知らせてあげた方がよさそうだ。しかしいつ頃その間違いに気がつくだろうか。おもしろいから、しばらくはこのまま放っておこう。こう考えたのである。

安部、新居田の両氏にはすぐにメールでこのおもしろい事実を伝えたところ、やはりお二人とも日本語を専門とされる方々だけに、肝心のサオ語そっちのけにして、大きな興味を持たれたようである。ほどなく、5月開催の日本語学会で大阪大学の真田信治教授と東華大学の簡月真さんがこのアタヤル語寒溪方言について報告をされるということを安部から知らされた(安部は寒溪方言のサイト上で「泰雅語」と

あるため当初タイヤル語と認識し、それが発表予定のアタル語と同義であることに気付くのが遅れたという)。そのことではじめて、この言語が勘違いでできあがったものではなく、日本語をベースにしたピジン、あるいはクリオールなのだということを、おそまきながら悟ったのである。

(2) アタル語

台湾にはオーストロネシア語族に属する言語を話す先住民族が住んでいる。正式には「台湾原住民族」と呼ばれる。日本では「先住民族」と言うのが普通で、「原住民族」というと「野蛮、未開」などのマイナスイメージが強い。ところが漢字で考えると「先住民族」は「昔住んでいたが今はもう住んでいない民族」という意味になってしまい具合が悪い。「原住民族」ならば「昔からもともとここに住んでいる民族」という意味である。

さて台湾原住民族と言っても一つではない。系統としては同じオーストロネシア語族に属するとしても、互いに英語とロシア語ほどに違う言語を話す民族が10以上存在する(名称と地理的分布および分類については日本順益台湾原住民研究会(編)2002:8-9参照)。その中にあってアタル語は他の台湾原住民諸語からもっとも古い時代に分かれ出たものだろうと考えられている。つまりそれだけ他の言語とはかけ離れて異なるということを意味する。

アタル語(Atayal)はセデック語(Seediq)とともにアタル語群(Atayalic)をなしている。そしてアタル語は大きく分けて「スコレック方言」と「ツォレ方言」の二つに大別される(Li 1981)。文法的な違いは小さいが、祖語からの音変化の対応関係と語彙が異なる。「スコレック(sqoleq)」も「ツォレ(c'ole)」もともに「人」を表すアタル語であって、語源は同じであるが、現在ではごらんの通りほどの違いとなって現れている。ここにcで表した音は[ts]を、そしてアポストロフィは声門閉鎖音を表す。

土田は1979年から80年にかけて34ヶ村を回りアタル語の方言調査(および8ヶ村のセデック語方言調査)を行ったことがある。宜蘭縣大同鄉寒溪村はその1つであった。その結果によれば寒溪村で話されるアタル語はスコレック方言に属する。残念ながら土田のアタル語方言調査の結果は中央研究院歴史語言学研究所で簡単に口頭発表ただけで、資料を整理する時間的余裕がないままに、いまだに

その全貌を印刷に付する機会を得ない。本稿付録の寒溪方言のところに、対応する土田調査による寒溪語彙を加えておいた。参考にされたい。土田の発表に刺激されて、土田調査の直後、そして1994年から95年にかけて同研究所の李壬癸教授がアタール語方言調査を行い、寒溪方言（これは1994-95年度調査による）を調査した結果は、土田のそれとほぼ同じであった（李 1996: 185-217）。

しかしながら、そのようなピジン語あるいはクリオール語が寒溪村で行われていたという事実は、土田・李壬癸ともにまったく気がつかなかった。その理由はおそらく二つある：

- 1) 両人ともにインフォーマントとして年寄りのみを採し、若い人たちがどのような言語生活をしていたかについてまったく注意を払わなかった。
- 2) 方言調査は、ごく短期間に限られた量の単語や文を集めなければならない、滞在日数が足りなかったために若い人たちとの接触がほとんどなかった。

日本で方言調査を行うときには、方言量の多い単語（つまり方言差の現れやすい単語）を前もって文献などの資料に当たって調べておき、それから調査を行うと理解している。しかし台湾原住民諸語のように既存文献がきわめて限られている場合は、方言量が多い単語とはどのような単語なのかなどは調べるよすがもない。それよりはむしろ、基礎的と考えられる単語を選び、それに文法を知るためにわずかの文を加えたものを調査項目として現地調査を行う。土田のアタール語方言調査の場合はやや欲張って、1村につき約千項目ほどを2日ないし3日かけて行ったが、李壬癸教授の場合はそれよりやや少なく、調査項目数は700前後と思われる。

（3）寒溪の言語：現在と将来

台湾原住民の言語はいずれも消滅の危機に瀕している。それを防ぐために小学生に自分たちの言語を教え、さらに数年前からは「原住民族語言能力認証試験」を行って、合格者には大学入学試験などに特別の便宜を図るなどの優遇策をとるようになった。そのために14族43方言の問題集と解答などがネットで公表されており、サオ語のついでにアタール語寒溪方言の資料を偶然みつけることができたのも、そのおかげである。

2007年9月8・9日、台中教育大学において台湾語言学一百周年国際学術研討会が開かれ、その際、土田は国立師範大学の黄美金教授にお会いする機会を得た。彼

(34)

女は泰雅語寒溪方言問題作成委員会のスーパーバイザーを務められた方である。寒溪方言についておたずねしてみると、概略次のようなお話だった：

- 1) 15歳以下の若者は国語、すなわち中国語を使う。
- 2) 15歳から50歳くらいの世代はこのクリオール語を使っており、アタル語はできない。
- 3) この世代の人たちはこの寒溪の言語を正式にアタル語の方言として認めてくれるように要望書を原住民委員会に提出したが、ほかのアタル語方言の委員から、あれはアタル語方言とは認めがたいという反対論があり、現在のところはむずかしい。しかし、族語母語認定試験は行ってよしいということになり、去年、そして今年も12月に行うことになっている。【教師認定試験は9月10日に行われたようである。】
- 4) 教科書はない。次のネットにのせてある、あの資料がすべてである：<http://140.122.109.156/new/>⁽⁴⁾【ただし大阪大学・真田信治教授等によると初級教科書が3冊出版されているようであるが、筆者未見である。さらに注4を参照。また新居田情報によれば、寒溪方言話者である方喜恩氏の話として、初級教科書3冊は出版されていないということである。黄美金教授の話とも合わせて、やはりまだ出版されていないというのが真相らしい。】

ところがこのホームページにあった寒溪方言資料を含む言語問題集および解答が2007年10月5日前後から見られなくなってしまった。どうしたのかと思っていたが10月7日夜、野島本泰氏より次のような連絡があった。野島氏はブヌン語の専門家であるが、彼のブヌン族の友人がこの9月から原住民委員会の委員になったので、その友人を介して寒溪語資料について尋ねてもらったところ、原住民族委員会では寒溪周辺一帯のクリオールを正当な原住民語として認定できないという決定がなされた、というのである。ホームページが一時閉鎖されたのは、寒溪方言をはじめとして、ほかの言語・方言資料を更新する作業のため、一時的にアクセスできなかったかもしれない。まっとうな原住民語として認定されるか否かの問題はさておいて、世界的にも珍しい「日本語ベースのクリオール」の有り様が、現地に行かなければわからなくなってしまったのは残念なことと言わねばならない。

その後、新居田純野氏の報告によれば、寒溪方言の特殊性についてはすでに

2006 年 4 月の新聞報道によって広く知られていたようである。それによると、寒溪村の住民は自分たちの話す言語が周囲のアタヤル語とははなはだしく異なるために、自分たちの話す寒溪方言を原住民族能力認証試験の一つとして認めてほしいと原住民族委員会に要求した。さもないと寒溪村の住民は、自分たちが日常話している言語とははなはだしく異なる言語をあらたに勉強して試験に合格しなければならず、非常に不利な立場におかれるからである。そこで 2006 年末に行われた認証試験では、泰雅語寒溪方言としてこの特殊な言語が試験の一つに加えられた。

ところが 2007 年夏頃にはそれが取り消されたいらしい。そのことを明記した公文書をまだ発見するには至っていないのだが、そのかわりに、2007 年 8 月に発表された模擬試験、そして 9 月初旬の本試験問題集が公表されているのを 10 月中旬になって発見した。

「九十六年度原住民族語言能力認証模擬題」：http://140.122.109.96/ipt/viewpage.php?page_id 4

「九十六年度原住民族語言能力認証題」：http://140.122.109.96/ipt/viewpage.php?page_id 7

これには 2006 年度版にはあった「泰雅語寒溪方言」は見あたらないのである。話者の心情は理解できるものの、純粋に言語学的に言えば、寒溪村で話されている言語がアタヤル語の方言とは言えないであろうから、今後、一つの独立した言語として認められるようになるのかどうか、興味をもって見守っていきたい。またどうして寒溪村とその周辺の村落のみにこのようなクリオール語が発達したのか、その理由も研究しなければならない。

しかしながら、たとえこの日本語ベースのクリオール語が他の言語とは異なる独立語として政府に認められたとしても、15 歳から 50 歳くらいの世代が次第に歳をとり、日本語の供給源が絶たれるようになれば、やがて中国語からの借用語が次第に増え、やがてはこの貴重なクリオールも、ほかの台湾原住民諸言語・諸方言と同じく、まことに残念なことながら、この地球上から姿を消してしまう運命にあるのではないかと予想される。もしも独立した言語と認められなければ、已んぬる哉、その消滅はもっと早まることであろう。

3 アタヤル語寒溪方言の状況——公式ウェブサイトより——

(1) 寒溪方言のウェブ上の資料

本稿で紹介するウェブ上の寒溪方言データについて解説する。

台湾の行政院原住民族委員会は、原住民の言語普及のために様々な教材を提供しているが、その一つとして、ウェブサイト上に、学習用の教科書や練習問題を掲載している。本稿で、寒溪方言資料として取り上げるのは、その中の練習問題とその解答である。サイト閲覧は、次の URL で、以下のようにたどることで閲覧可能である。

<http://140.122.109.156/new/> (あるいは <http://iel.apc.gov.tw/>)

「九十六学年度原住民学生升学優待取得文化及語言能力証明考試之試題範例及練習題計畫」→左の選択肢→「族語練習区」の中の2つのうち「練習題暨解答檔案下載」→「泰雅語」の中の「宜蘭寒溪泰雅語 下載」を選択(時々、閲覧に支障が生じることがある(補注2)。

そのサイト内には、練習問題やその解答などの別があり、また、それぞれ、基本単語や基本文型ごとに分かれている。音声が聞ける発音練習になっている言語(あるいは方言)もある。本稿では、基本語彙や基本文など全体が一覧できる部分を主たる資料とし、その基本語彙一覧を提示した部分(以下、「基本語彙一覧」とする)と、基本的例文を提示した部分(以下、「基本文型」とする)を対象とし、それぞれの一覧を表1, 2として提示する(初校時に表2は紙幅の都合で大幅に割愛した)。また、全体を「(アタヤル語) 寒溪方言ウェブ資料」と仮称することにする。

(2) アタヤル語宜蘭方言および日本語との対照表(表1)

表1では、「アタヤル語の寒溪方言における日本語」として、「寒溪方言ウェブ資料」の「基本語彙一覧」をもとに、それに対応する土田滋 1980 調査語彙及び李壬癸 1994-95 調査語彙、さらにアタヤル語のスコレック方言、ツォレ方言、中国語、日本語、英語を対照させ、また、寒溪方言における日本語語形、及び、台湾語などの情報を対照させて示した。寒溪方言語彙のうち、日本語語源と判断されたものは、太文字ゴシックにて表示した。また、基本語彙一覧で、アタヤル語が掲載されていても、「文型」の方に、「基本語彙一覧」に掲載されていない日本語起源の語彙が使

用されているものも見られた（例、数字の「5」における「go」など）。それらも、【 】に入れて併記して掲載してある。

（3）意味別の語彙出自比較

ここでは、「寒溪方言ウェブ資料」における基本語彙について、語彙の意味分野ごとに、日本語との混在状況を概観してみる。意味分野は、サイトの「基本語彙一覧」の分類に従う。意味分野によって、日本語の現れ方に、概略以下のような相違が見られる。

- 1 数詞——6と10以外基本的にアタヤル語と言える。一方、文例を参照すると、ある一定の語（年齢や時刻）に日本語が見られる。例えば、5, 8, 15, 18である（補注3）。
- 2 代名詞——全例日本語である。
- 3 疑問詞——全例日本語である。
- 4 親族——「兄弟姉妹」と「叔父（伯父）」の、総称的とも言える語彙に日本語が使用されている以外は、中国語（台湾語にも類似するもの）か台湾語などの語彙のみである。
- 5 人物——「先生、学生、医者、看護師」など、学校・教育制度に関わる語彙（文化語彙）が日本語であるという特徴を示す。
- 6 人名——総称的抽象名詞とも言える「名前」で日本語が使用されている。
- 7 身体部位——全例アタヤル語である。身体語彙には基層語が残しやすいと言われるが、その点でも身体語彙が全例アタヤル語であるこの状況は興味深い。
- 8 動物語彙——これも、全例アタヤル語である。
- 9 植物水果——「みかん」は、台湾にも様々な種類が見られる柑橘類の総称として使用されていると考えると、やはり「花」が総称として使用されていることとの共通性が指摘できる。
- 10 物品——日本語とアタヤル語とがほぼ半々である。しかし、「本、鉛筆、飯台、電話、傘」など、比較的、文化語彙に日本語が認められると言えよう。
- 11 山川・建築——掲載語彙が少ないが、日本語とアタヤル語が半々で、「学校、国民学校」などの学校制度に関する語彙が、「5人物」同様、ここでも日本語

である。

- 12 自然景観——掲載語彙が少ないが、「天気」が日本語で他の具体的事物はアタル語である。「天気」のように、総称的抽象名詞が日本語であるのは、人名における「名前」や、植物の「花」「みかん」などと共通している。
- 13 時間——「朝」以外は、すべて日本語である。同じ「日時」に関する語彙でも、数字が基本的にアタル語であるのとは対照的である。日本語の古代語では、数詞に高句麗語との同源が指摘されているが(新村出)、この「時間」(今日明日類)には同源語の確実な説はない。現代日本語でも、数字には、ワン・ツー・スリーほか外来語が日常語に入っているが、今日明日昨日など「時間」での外来語(トゥディなど)としての定着は見られない。つまり、日本語では、「数字」は外来語を受容しやすいが「時間」ではそうではないという傾向を示す。しかし、寒溪方言では、それとは反対の傾向を示す、ということになる。
- 14 事件(動詞)——ここには、動詞、形容語(形容詞・形容動詞的なもの)、副詞や日常的語彙などが掲載されている。注目されるのは、動詞における日本語使用が極めて目立つ点である。一方、形容語ではアタル語が多い傾向が指摘できよう。また、動詞は命令形で受容されているのも大きな特徴である(語末が—aのものも、表に示したように、命令形と解釈される)。この傾向は、土田1988.1でも、同様の結果が見られ、そこでもやはり命令形が多い。
- 15 その他——種々雑多な語彙であるが、日本語が多い。

以上、掲載の意味分類語彙ごとに、その傾向を指摘した。これら全体を一括して概観すると、次のような傾向を指摘できる⁽⁵⁾。

- ① アタル語は、身体語彙、数字(数詞)、人物語彙、動物、植物、自然景観などの、古くから使用されていだろう語彙、つまり、基層語的語彙に多い。
- ② 反対に、日本語は、学校や社会制度に関わる文化語彙、「天気・名前・花」など総称的抽象的語彙に多い傾向がある。日本語における漢語が、和語に比して抽象名詞や文化語彙で多いことと比較される。
- ③ 興味深い点は、代名詞、疑問詞、時間、動詞など、言わば、文章表現・談話・コミュニケーションなどにおいて必要な語彙、あるいは、文法的機能語とも言

える語彙においては、日本語が少なくない点である。

- ④ 上記とは異なり、特に親族語彙に関しては、台湾語（ないし中国語）の影響が大きい。

このうち、③の点は、日本語が、談話を構成している1つ1つの文の基幹的要素にまで浸透していることを示しており、②のように、単に文化語彙として外来語のように浸透している段階に留まらず、日本語とアタヤル語との言語的混成が、より深い段階まで進行していることを示すと解釈できる。今後、より多くの語彙を対象とした分析や、文法の混交についてもクリオールの状況を検討する必要がある。

4 アタヤル語（泰雅語）寒溪方言に関する台湾情報

（1）原住民族言語における認定試験

台湾では、正式には13族を数える少数民族が住んでいる（補注4）。風俗習慣・言語ともに消滅の危機を迎えており、それを保護するための政策が種々推し進められている。言語・方言については、その保存をはかるため、次の2種類の試験が行われている。

- A 原住民學生升學優待取得文化及語言能力證明考試（以下、「族語母語能力証明試験」（新居田意識）とする）
- B 原住民族語言能力認證考試（以下、「族語教師認證試験」（新居田意識）とする）

このような状況の中にあって、アタヤル語寒溪方言話者は自分たちの話す言語をアタヤル語の一方言と考えているが、この方言には語彙、文法ともに日本語要素があまりにもたくさん混じり込んでいるため、他のアタヤル語の方言話者たちはこれをアタヤル語の方言と認めるのにはかなり抵抗があるようである。そのため、寒溪方言に関しては、学生対象に行われている「族語母語能力証明試験」は実施されているが、「族語教師認證試験」の方は実施されていない。

そこで、この二つの試験に関する情報を中心に、現時点までに入手することので

きたアタタル語寒溪方言に関する台湾情報について時間の経過に沿って報告する。

なお以下で「族語」というのは「原住民族語」のことで、台湾では人類学会やメディアを中心に、ごく普通に用いられている正式の用語である。

最初に施行された原住民族語に関する試験は2001年の族語教師認証試験であった。これは、原住民族語を守っていくために、族語を教えることのできる教師を認定することが目的の試験である。2004年まで連続4回(資料2c)の試験が実施されたが、2005年、2006年は実施されず、2007年9月に再開された。

アタタル語(泰雅語)に関して言えば、2001年の第一回目「族語教師認証試験」では、賽考利克方言(Squliq)、澤敖利方言(C'uli)、萬大方言(Pngawan)、汶水方言(Mayrinax)の四方言で実施されたが(資料1(族語認証2回クリック→練習題))、2007年の「族語教師認証試験」では、寒溪方言(Kanke)を除く、賽考利克泰雅語、澤敖利泰雅語、汶水泰雅語、萬大泰雅語、四季方言(Skikun)(91年新增)、宜蘭澤敖利方言(宜蘭C'uli')(95年新增)の六方言で実施された(資料2a→96年模擬試題下載、2b付録)。

なお、試験施行に関しては、第一回目は政治大学、二回目、三回目、五回目は台湾師範大学、四回目は東華大学が任されており、族語教材編集は政治大学原住民族語言教育文化研究中心が行っている。

また、族語母語能力証明試験(資料3)であるが、高校・大学入試の際、これまでは原住民であれば入試の点数に25%加算されてきたが、この族語母語能力証明試験に合格すれば35%加算される(資料4)ことになっており、2007年3月に第一回目が実施され(資料4)、12月が第二回目の試験となる(資料5,6)。「族語母語能力証明試験」では、アタタル語は賽考利克方言、四季方言、澤敖利方言、汶水方言、萬大方言、宜蘭澤敖利方言、宜蘭寒溪方言(「この方言には大量の日本語語彙が融合されている」の注記あり(資料7))の七方言に分類されて実施されている(資料3→計画簡介→43種族語方言名称、資料5→付録2)。

次の表は、「族語教師認証試験」「族語母語能力証明試験」の実施の流れと、それに対するアタタル語寒溪方言話者たちの動向について、年次ごとにその経過をまとめたものである。

二つの原住民族言語認証試験の推移とそれに対する寒溪方言話者の対応

(新居田)

	行政院原住民族委員会		行政院原住民族委員会に 対する寒溪方言話者の動き
	族語教師認証試験 「原住民族語言能力認證 考試」	族語母語能力証明試験 「原住民學生升學優待取得 文化及語言能力證明考試」	
2001年 民国90年	他の多くの原住民族語では第一回族語教師認証試験が実施されたが、寒溪方言は実施されず。(資料1)		寒溪方言話者内で「族語教師認証試験」が行われないことに対して抗議の声が起こり始めた。(方喜恩氏談。開始時期については未確認)
2002年	他の多くの原住民族語では実施されたが、寒溪方言は実施されず。		
2003年			
2004年			
2005年	すべての原住民族語で実施されず。		
2006年 民国95年	すべての原住民族語で実施されず。		4月方喜恩氏の抗議が新聞記事に掲載。(資料8)
2007年 民国96年	9月8日、他の多くの原住民族語で実施されたが、寒溪方言は実施されず。(資料2b)	3月10日13族43方言第一回試験実施(資料4)12月8日第二回試験実施予定(資料5, 6)	寒溪社区發展委員会が中心になって抗議運動を行っている。(方喜恩氏談)
付 記	2001年～2005年試験問題(資料2c)、試験内容:「口述」「筆記」そのほか、書面審査、推挙(55歳以上)もある。実施対象は原住民以外も含む。(資料1, 2b)	試験範囲:教育部出版の 小中9年一貫課程原住民族語教材第一階, 第二階, 第三階および基本日常生活用語(資料3) 試験内容:聴解60%と口述40%(60点以上合格)(資料5) 合格者は35%加算(資料4)	

方喜恩氏談:2007年10月27日における、新居田の電話インタビューによるもので、通訳は杜岱玲氏。

(2) アタヤル語寒溪方言の位置づけと現状

原住民族学生が高校・大学進学時の優遇措置を受けられるようにするために、中学生・高校生を対象に行われることになった族語母語能力証明試験では、他方言と同様に寒溪方言は母語と認められているが、原住民族言語を指導する教師として認

定する族語教師認証試験では、寒溪方言はアタル語の族語として認められていない。このことがアタル語寒溪方言における最も大きな問題点であるといえるだろう。本年度すでに5回目の族語教師認証試験が実施されているが、寒溪方言ではこれまで一度も実施されていないのである。

寒溪方言での族語方言群に属する南山方言と澤敖利（ツオレ）方言群に属する四季方言の教師認定を受けた族語教師が、寒溪方言の代わりに塞考利克方言と澤敖利方言を教えている、というのが実情である。

また、この族語母語能力証明試験を受ける申請は学校による団体応募の形でなされている。個人で応募することも可能だが、応募方法は複雑になる。試験問題は聴解と口述の試験のみであるにもかかわらず、学校側では、寒溪方言話者である学生たちに対し澤敖利方言か塞考利克方言を選択して試験を受けるように勧めている。そのため、学生たちは母語である寒溪方言では試験を受けていないのである。

族語として認められていない寒溪方言は、寒溪方言を教える族語教師として認定された教師もおらず、いずれ使われなくなる可能性がある。そのことを憂えて、寒溪方言話者の方喜恩氏（世新大学社会発展大学院修士課程在籍中）は2006年4月に抗議の行動を起こしたのである。しかし、方喜恩氏によれば（10月27日の電話インタビュー（通訳：杜岱玲氏））、寒溪方言を族語として認めない台湾原住民族委員会に対する抗議の声は、2006年4月以前からすでにあったということである。だが2006年4月以前のいつから起こったのか、その時期については現時点では確認できなかった。現在では、寒溪村の社区発展委員会が要望を続けている。

では、なぜ原住民族委員会は寒溪方言を族語として認めないのだろうか。

その理由こそが、本稿で取り上げた寒溪方言に日本語語彙が多数見られるということである。方喜恩氏の説明によると、寒溪村は1917年からすでにあった村だが、日本統治時代、日本人によって母語の使用が禁じられた。しかし、母語を完全に失いたくなかった、そして同時に、完全に日本語だけの使用にすることも潔しとしなかった寒溪方言話者たちは、母語と日本語を混在させて使用するようになったのだそうだ。現在中高年層世代では、この日本語の混在している寒溪方言を使用しているという。

多数の日本語語彙が取り込まれているアタル語寒溪方言に対する話者たちの思いについて、方喜恩氏は次のように語ってくれた。

「寒溪方言話者にとって、日本語がどんなにたくさん入っていようと、自分たちの使っている寒溪方言は両親から教えてもらった自分たちが守るべき母語であり、族語として認めてもらえることを心から願っている。」

(謝辞：本章での台湾における情報収集、および、それらの情報の翻訳は杜岱玲氏(大葉大学応用外語研究所大学院修士課程)の協力による。心よりお礼申し上げます。)

5 おわりに

以上、アタル語の寒溪方言における日本語の混在状況を概観し、あわせて、寒溪方言が台湾で置かれている現状について報告した。

臨地調査には、上記のように、約25年前の土田の調査、約10年前の李の調査がある。現在の臨地調査は、真田・簡2007でも試みられている。両氏2007の学会発表における質疑応答(安部の質問)とその後の御教授によれば、聞き手が日本人のときは、先方が積極的に日本語で回答しようとし、また、台湾人の時はそれとは異なって台湾語も交えた回答になってしまう傾向があり、調査上の困難さが伴うという。現地出身の地元学生を介して調査するなどの工夫をしているとの話であった。語彙や文例には、そのような調査上の課題があることがうかがえる。

われわれは、ウェブ資料の原稿の作成者とその言語経歴、及び、真田・簡2007での現地調査の協力話者との関係や、それらの話者の寒溪方言村落内部での言語経歴と社会的位置などについても、今後の調査が必要であると考えている⁽⁶⁾。

なお、次の4つの資料を対照させると、寒溪方言の過去約30年間の語彙の変遷が、ほぼ10年単位で対照可能となる。われわれはその比較を始めているが、その資料からは③の段階で急速に日本語が現われてくように見えるが、①②では、上記2-(2)でも触れているように、アタル語の高年層話者を中心に調査し、中若年層に注意を払っていないので、必ずしも集落構成員全体の実態を正確に投影していない可能性がある。それらの問題の検討も含め、他の調査データの発掘など過去の状態について確認も必要である。

① 土田の1979年から1980年の調査(未公表資料)

② 李の1994年から1995年の調査による李壬癸1996『宜蘭縣南島民族與語言』

(入手済み、アタル語の宜蘭県の各方言の語彙一覧がある)

- ③ 2006 年発行という「国民中小学九年一貫課程原住民族語學習手冊 寒溪泰雅語學習手冊第一, 第二, 第三階」

- ④ 2007 年「寒溪方言ウェブ資料」

以上、日本語とのクリオールの可能性があるアタル語寒溪方言について簡単に報告した。ウェブ資料の文型の分析は次の機会に取り上げたいと思うが、真田・簡 2007 では文法中心に考察し、日本語とのクリオールとの判断を提示している。寒溪方言の現地での詳しい状況とその分析については、今後の臨地調査の機会を俟ちたい。

注

- (1) 本稿の本文は、第 2 章を土田が、第 4 章を新居田が執筆し、それ以外を安部が草稿をまとめて土田が全体を加筆修正した。表 1 は、それぞれの項目を安部・土田・新居田(付記参照)が加えていき、全体を土田の指導のもと安部がまとめた。表 2 は、土田がサイトを元を選択作成し、新居田・安部が整理した(表 2 は日本語起源語への注記や日本語訳は今回付さなかった)。執筆者名順は、注 2 のように土田が最初に指摘した問題であるが、土田のご意向で 50 音順とした。なお、執筆者が章ごとに異なるため、調整後も内容に多少の重複が残ったが、それぞれの原文のままとした。読者のご海容のほどお願い申し上げる次第である。また、ウェブサイト上の寒溪方言の用例も多く掲載したかったが紙幅の制約のために一部に留まった(初校時までであった表 2 も割愛となった)。各位直接ご参照いただければ幸いである。
- (2) 土田が、寒溪方言のサイトを見出したのは、2007 年 4 月 29 日である。以下にその翌日 30 日のメール①と、同日の続きのメール②を記録として引用しておく。

①2007 年 4 月 29 日(土田→新居田宛, cc. 安部清哉)

From: "TsuchidaS"

Sent: Monday, April 30, 2007 10:37 AM

Subject: Re: サオ語教師として認定された人の情報

新居田純野さま (cc. で安部宛)

> (略) >

> 実は昨日、簡史郎先生に教わったサイトにアクセスして、「九十六学年度原住民族

> 生升学優待取得文化及語言能力証明考試之試題範例及練習題計畫」という長い題

> のところに基本語彙など見てみました。(中略) サオ語と関係ないけれど、
おもしろいから以下に

- > はじめの部分をちょっとだけ写しますと：
- > > (引用例略)
- > 2. 代名詞
- > waha 我
- > waha no 我的
- > wahataci 我們
- > anta. > (引用例略)
- > (引用略) 小生もアタル
- > 語の方言調査で宜蘭・寒溪に行ったことがありますが、1980年前後はこん
- > なにひどくはなかった。サオ語だってまだまだ大丈夫なのに。驚いています。
- > > 土田 滋

②2007年4月30日(土田→安部宛, cc. 新居田, サイト閲覧方法の解説メール)

From: "TsuchidaS"

Sent: Monday, April 30, 2007 5:19 PM

Subject: Re: サオ語教師として認定された人の情報

> 安部清哉様 (cc. で新居田宛)

> > すごくですね。簡史郎先生のメールにあった次のサイト：

> <http://iel.apc.gov.tw/>

> にアクセスして、そこのページの

> 「九十六学年度原住民学生升学優待取得文化及語言能力証明考試之試題範
例及練習題計畫」

> をクリックする。しばらくすると左側にいろいろ現れますが、その中の

> 「族語練習区」にカーソルを合わせると2つ出るうちの

> 「練習題暨解答檔案下載」をクリックする。いろんな言語・方言があるけれど

> (邵語もある)「泰雅語」の中の「宜蘭寒溪泰雅語 下載」を選ぶと出てきます。

>> 土田 滋

- (3) この教科書は一般には入手できないようであるため現在未見であり、コピーでの入手を試みてはいるが、まだ成功していない。あるいは、ウェブサイト上にのみある教科書のことを指している可能性があるが、未確認である。
- (4) その後、2007年10月19日に至り、台湾に滞在する新居田からの連絡により、台湾ではまだ見られるという。日本と台湾とでホームページにアクセスするのに差があるのかと思い、改めて再びアクセスを試みたところ、アクセスすることもできた。なお、その後いろいろ見ていくと、同じ、<http://140.122.109.156/new/>から→左・上から3番目「日常族語」→1番上「教育部九階教材前三階」に進むと、「寒溪方言泰雅語学習手冊 第一階～第三階附録」(及びその読み上げ音声資料)が確認できることがわかった。それは、おそらく真田・簡(2007)で引用されている『寒溪泰

雅語学習手冊』の第1階～3階の一部(附録)で、その改定版なりウェブ版ではないかと思われたが、真田・簡 2007 で使用した資料を実見していないので今は確認がとれない。それらの音声データを聞くと、イントネーションはアタル語のそれらしいことがわかって、まことに興味深い。おかげで 50 年も昔、筆者が学生のころ起こった金関丈夫と服部四郎とのやりとりを思い出した。考古学・民俗学・民族学者であった金関丈夫博士は「八重山の一部には、過去において入れ代わった旧言語のイントネーションが、今日まだ残留している。そのイントネーションはインドネシア語のそれに似ているらしい。云々」(『民族学研究』19.2:1-35)と述べた。それにたいして言語学者の服部四郎教授は真っ向から否定し、何千年も前のサブストレアタムであったかもしれない言語のイントネーションが、現在に至るまでそのまま連綿として続いているなどとは考えにくいと述べた(服部四郎『日本語の系統』1959:114-133. 岩波書店)。何千年も昔ならばいざしらず、数十年のタイムスパンであれば、サブストレアタム言語のイントネーションもじゅうぶん生き残れるものだったことである。興味をお持ちの読者はぜひ一度アクセスして聞いてみて欲しい。このデータもいつまた閉鎖されてアクセスできなくなってしまうかもしれないから、早いうちがよろしかろうと考えるものである。(土田)

- (5) 比較のため、少し長くなるが、土田 1988.1「言語が消えるとき、何が起こるか」で指摘している関係する部分を以下に要約して掲載する。

「二つ(あるいはそれ以上)のそれぞれ異なる言語を話す集団が、何らかの事情で互いに接触するようになると、両者は当然のことながら意志の疎通をはかろうとする。その時、それらの言語にどのような事が起こるだろうか?

ごくごく大ざっぱに図式的に示すとすれば、次のようなケースが考えられるだろう。(I, L は勢力の強い言語を表し, i, l は弱い言語を表す。また L, l は土着の言語を(Local), そして I, i は新来者の言語を(Intruder) 表すものとしよう。もちろん L, I とともに新来者で、無人の荒野に来て互いに接触したと考えてもかまわない。)

- (1) L / I 互いに独立したまま干渉しない。(隣接言語 adstratum)(スイスにおけるドイツ語とフランス語, など)
- (2) l ← I 新来言語が優勢で、土着の言語を押しつぶす。(基層言語 substratum)(ガリア地域におけるケルト系言語とラテン語, など)
- (3) L → i 土着言語が優勢で、新来言語を吸収する。(上層言語 superstratum)(ガリア地域におけるフランス語とゲルマン系のフランク族の言語, など)
- (4) L→P← I どちらかの言語をベースにした新しい言語 P が生まれる。(pidgin, creole)

台湾原住民族(日本時代の高砂族)諸語はすべてオーストロネシア語族に属する。17 世紀に大量の漢民族が中国大陆から台湾に流入し、平地に住んでいた原住民族はその時代から漢民族に接触したために、清朝時代にすでに漢民族化し、固有の言語・文化の大半を失っていた。したがって熟蕃、あるいは平埔族と呼ばれる。すなわち上の(2)のケースである。そのような死に瀕した言語では、いったいどういうことが起こるのだろうか?

1895年に始まった台湾の日本統治時代に、何人かの研究者によって集められた二、三の平埔族の言語（タオカス語、パボラ語、ケタガラ語）の資料を、土田自身の調査結果と比較しながら考察する。当然ながら、時代が下がるにつれ、思い出せる単語や表現は少なくなる。こまかく見ればいろいろなことが観察されるが、紙数の関係でごくおおまかに要点だけを列挙すれば、次の通りである：

- 1) もともとあった発音の区別が曖昧になる。ほとんどの台湾原住民諸語では流音（Liquid）に少なくともrとlの二つの区別があり、平埔族の言語にあってもおそらく同様だったろう。ところがlとrの別を持たない台湾語（中国語の福建方言）の影響を受け、その区別が甚だ曖昧模糊としている。私のフィールド・ノートにはrとlと書き分けてはいるものの、じつはそれほど自信があるわけではない。bとmの区別が怪しくなるのも台湾語の影響である。
 - 2) 単語の形はかろうじて覚えていても、その意味が曖昧となる場合が多くなる。たとえばパボラ語の「祖父」「曾祖父」「祖母」や「太陽」「月」、ケタガラ語の「父」「母」「兄、姉」など。
 - 3) 「みんな来なさい」「早くご飯を食べなさい」「男の陰毛」などのようにフレーズとしては覚えているが、単語という単位には切れなくなった表現が次第に増える。
 - 4) そのようなフレーズでは命令表現が多い。
 - 5) スワデッシュの《基礎語彙》の中では『人間関係』、『身体名称』、『数詞』に関する語彙はかなりよく残っているが、『動詞』『形容詞』の類は残りにくい。動詞は上の3)に述べたように、ごく基本的な動作を表す語がかろうじてフレーズの中に残るだけのものである。生成文法ではますます動詞中心となりつつある傾向にあるのに、死にかけの言語では反対に動詞が残りにくいという事実は興味深い。「太陽」「月」「星」など「自然現象」を表す単語も残りにくいらしいのは、意外であった。
 - 6) いわゆる《文化語彙》に属すると考えられる「豚」「鶏」「飯」「銭、銀」などもよく残る。おそらく日常生活に密接に関わる項目だからだろう。パボラ語では「すっぱん」「ばくち」などの単語が残るのには驚かされる。タオカス語で最後まで残った「酒」を表す語が、パボラ語ではみごとに三世代を通じて残っているのにケタガラ語で残らないのは、この言語最後の伝承者が謹厳実直な牧師さんだからだろうか？
- (6) この寒溪方言の状況が、寒溪方言の平均的姿を代表するものか、何らかの特定の条件によるものなのかは、今後の現地調査が必要と思われる。われわれのサオ語の調査でも、近年のさまざまな調査における主たる協力話者が、ある一部の話者に特定される傾向が少なくないために、その話者の言語に偏って報告される状況が確認できる。現地の母語話者調査におけるさまざまな環境によって、実際には話者による表現の相違が少なくないが、（現地の人が推薦する一定の話者の）特定の言語表現が、あたかもその言語の標準のものとして、記録公表されていくという状況も見られ、そのような場合への配慮も必要である。

補注1 なお本稿と関連とし、土田による次の論文があり、本稿には紙幅の都合で掲載できなかったウェブサイト上の寒溪方言のデータとその解説がある。土田滋 (2008.3 予定)「日本語ベースのクリオール」日本順益台湾原住民研究会編『台湾原住民研究』12, 風響社 (東京)。

補注2 もし文字化けが起こるようであれば、「表示」→「エンコード」→「繁体字中国語 (Big 5)」をクリックされたい。

補注3 (土田) 参考のためにフィリピンのタガログ語 (Tagalog) の場合も述べておく。タガログ語ではスペイン語からの借用語が多い。数詞は本来の数詞もあって両者併用されているが、「時刻、年齢、金額」などはスペイン語由来の数詞を使うのが普通である。たとえば (用例はすべて L. J. English, Tagalog-English Dictionary, Manila: National Book Store, 1986 による):

dos 2 (Tag. dalawa)	a-las-dos 「2 時」
singko 5 (Tag. lima)	singko minutos 「5 分」
	singkong suka 「5 センタボのお酢 (suka)」
dose 12 (Tag. labindalawa)	a-las-dose ng hatinggabi 「夜中の 12 時」
trese 13 (Tag. labintatlo)	Trese anyos lamang siya. 「彼女は (siya) たった (lamang) 13 歳」

補注4 (土田) 台湾原住民族は長らく正式には 9 民族あるとされてきた (泰雅, 阿美, 排湾, 布農, 卑南, 魯凱, 賽夏, 鄒, 雅美) が、やがて、2001 年 10 月 邵族が独立した 1 つの族として正式に認められ、2002 年 12 月 噶瑪蘭が阿美族から、2004 年 1 月 太魯閣が泰雅族から、2007 年 1 月 撒奇萊雅が、それぞれ阿美族から独立した族として認められたため、現在では正式には 13 族あるとされている。賽德克はたぶん族語教育が始まるときに、言語の違いから泰雅から分離させられたのだと思うが、正式に独立した族と認められているわけではない。しかしそのため <http://iel.apc.gov.tw/all/default.asp> 「歴屆試題及練習題庫」では 14 族になっているが、しかし「族語教學」では Sakiraya はまだ Amis に含まれているので 13 族である。

資料1 http://www.alod.nccu.edu.tw/index_0.html
「政治大学原住民族語教育文化研究中心 (族語認証, 族語教室)」

資料2 a <http://140.122.109.96/ipt/news.php>
「96 年度原住民族語言能力認證考試」(行政院原住民族委員會 2007/7/30)」
b <http://140.122.109.96/ipt/download/96 iptinfo.doc>
「96 年度原住民族語言能力認證考試願書」(行政院原住民族委員會 2007/7/30)
c http://140.122.109.96/ipt/viewpage.php?page_id=5
「90 年~93 年原住民族語言能力認證考試問題」(行政院原住民族委員會 2007/7/30)」

資料3 <http://140.122.109.156/new/>
「96 学年度原住民學生升學優待取得文化及語言能力證明試驗の問題範例と練習

問題計画」

- 資料 4 <http://www.abohome.org.tw/modules/news/article.php?storyid=1244>
「文化及語言證明考試下週受理報名（祖靈之邦評論 2006/12/14）」
- 資料 5 <http://ntds.fsjh.ilc.edu.tw/BData/961%AD%EC%A5%C1%BBy%C0%CB%A9w%C2%B2%B3%B9.pdf>
「96 年度第 2 次原住民學生升學優待取得文化及語言能力證明考試能力證明考試簡章」
- 資料 6 <http://news.yam.com/cna/garden/200706/20070617393643.html>
「97 學年原住民族語言能力認證 12 月 8 日考試（中央社 2007/06/17）」
- 資料 7 <http://manjusibe.myweb.hinet.net/n0.htm>
「原住民語筆記」
- 資料 8 <http://www.epochtimes.com/b5/6/4/19/n1292496.htm>
「宜蘭寒溪部落搶救母語 抗議原民會族語政策（大紀元 2006/4/19）」
http://www.wretch.cc/blog/coaaa&article_id=5202962
「噶瑪蘭寒溪部落搶救泰日混合母語（中央社 2006/4/23）」

【参考文献】

- Li Jen-kuei Paul (李壬癸), 1981, 'Reconstruction of Proto-Atayalic phonology.' Bulletin of the Institute of History and Philology, Academia Sinica 52: 235-301.
- 土田滋, 1988. 1, 「言語が消える時」竹内敬人編『言語とコミュニケーション』（シリーズ・人間と文化 1）, pp. 129-152. 東京大学出版会
- 李壬癸 (Li Jen-kuei Paul) 1996『宜蘭縣南島民族與語言』宜蘭縣政府. pp. 185-217
- 日本順益台湾原住民研究会（編）2002『台湾原住民研究概覧』東京：風響社
- 2006「国民中小学九年一貫課程原住民族語學習手冊 寒溪泰雅語學習手冊第一，第二，第三階」（真田・簡 2007 による。一般には入手できないため，現在入手模索中）
- 真田信治・簡月真 2007「台湾アタラル族における日本語クリオール」『日本語学会 2007 年度春季大会予稿集』（2007 年 5 月印刷発行，2007 年 5 月 27 日学会発表される）
- 土田滋 2008. 3（印刷中）「日本語ベースのクリオール」日本順益台湾原住民研究会編『台湾原住民研究』12，風響社（東京）。

【付記】 本稿は，次の研究成果の一部でもある。

学習院大学人文科学研究所 2007-08 年度共同研究プロジェクト「危機言語・サオ語（台湾中部）の音声記録と記述の研究」（代表者，安部清哉（学習院大学），研究分担者・長嶋善郎（学習院大学）・新居田純野（台湾・大葉大学））

表1 アタタル語の寒溪

(基本語彙一覧)

土田 滋・安部清哉・

出自	泰雅語寒溪方言(web 資料2007年10月現在)	土田滋 1980 調査 寒溪方言	李千癸 1994-1995 調査 寒溪方言	泰雅語スコレック方言(web 資料)	泰雅語宜蘭縣ツォレ方言(web 資料)
★ ◎ ◇ △ cf. →	日本語は太字【】は文例に出る日本語, 出自記号 ★日本語 ◎アタタル語 ◇中国語 △台湾語	Q: voiceless pharyngeal stop, ? : →	? : glottal stop		
	1 数 字				
◎	utux	? utux		qutux	utux
◎	saing	saing		sazing	saing
◎	cyugal	tugal		cyugal	tugan
◎	payat	payat		payat	payat
◎ ★	magal 【go-me (5 名)】	magal		magal, magan	magan
★	roku				
◎	tiyu	tiyu ?		mtzyu, tzyu	tiyu
◎	pitu	pitu ?		mpitu, pitu	pitu
◎ ★	spat 【haci-zi(八時)】	spat		mspat, spat	spat
◎ ★	gelu 【ku-zi-hang(九時半)】	mQiru ?	m-qiru ?	mqeru, qeru	mesuw
★	ziuw				
◎	mpuw	mpu ?		m(o)puw	mpuw
◎	mpuw utux	mpu ? utux		m(o)puw utux	mpuw utux
◎	mpuw saing			m(o)puw saizing	mpuw saing
◎	mpuw cyugal			m(o)puw cyugal	mpuw tugan
◎	mpuw payat			m(o)puw payat	mpuw payat
◎ ★	mpuw magal 【yuko-say(十五歳)】			m(o)puw magal	mpuw magan
◎	mpuw tiyu			m(o)puw tzyu	mpuw tiyu
◎	mpuw pitu			m(o)puw pitu	mpuw pitu
◎ ★	mpuw spat 【yuha-say(十八歳)】			m(o)puw spat	mpuw spat
◎	mpuw gelu			m(o)puw qeru	mpuw mesuw
◎	mpusan	pusal		mpusal, pusal	pusan
	2 代名詞				
★ ?	waha 【wa】	kuing, saku ?	kuying, ku ?, saku ?	ku,saku, kuzing	kun, ku'ing (knan, kun)
★ ? ★	waha no	maku, mu ?		mu, maku	mu
★ ? ★	wahataci	sami		sami, ta	cyamin
★	anta	? isu		su	su (isu)
★	anta no	su ?		su	su

方言における日本語

新居田純野 編

中 国 語	日 本 語	Japanese in Atayal	English	note : 補足説明
		寒溪方言に見られる日本語語形。 【 】: 文型例から。 []: voiceless。		中国語文は文型例に出る事
一	一		one	
二	二		two	
三	三		three	
四	四		four	
五	五, (人=五名)	go	five	我一家有五個人
六(人; 點鐘)	六(人; 時)	roku	six(people ; hour)	
六	六		six	
七	七		seven	
八	八	hachi	eight	現在足八點鐘
九	九	ku	nine	我晚上九點半睡覺
十(人; 點鐘)	十(人; 時)	ju : w	ten(people ; hour)	
十	十		ten	
十一	十一		eleven	
十二	十二		twelve	
十三	十三		thirteen	
十四	十四		fourteen	
十五	十五	ju : go	fifteen	我已經十五歲了
十六	十六		sixteen	
十七	十七		seventeen	
十八	十八 ju : hachi, 【十八歲】	【ju : hassai】	eighteen 【eighteen years old】	我已經十八歲了
十九	十九		nineteen	
二十	二十		twenty	
我	わたし; わ wa(dialect)	wa-wa?	I	「我(ワ)+ハ」からか? 【我】
我的	私の	wa-wa? no	my	上記参照
我們	私たち	wa-wa? tachi	we	上記参照
你	あなた (anata, anta(col.))	anta	you (sg)	
你的	あなたの	anta no	your (sg)	

出自	泰雅語寒溪方言(web 資料2007年10月現在)	土田滋 1980 調査 寒溪方言	李千癸 1994-1995 調査 寒溪方言	泰雅語スコレック方言(web 資料)	泰雅語宜蘭縣ツォレ方言(web 資料)
★	antataci	simu		namu	cimu
★	zibun	yasa		hiya	hiya
★	zibun no	niya ?		nya	nya
★	kore	? ay	hani	qani	kwohe
★	are	yasa	hasa	qasa	kwe
★	koci	hani	hani	sqani	c'he
	3 疑問詞				
★	dare	? ima ?		ima	ima
★	dare no				'ra ima
★	doko	? inu ?		inu	inu
★	icu	knuan		knwan	knwan
★	nani ta	hmsua, mhsua	mswa ?	kmswa	mlux
★	nani	lalu nia ?		nanu	mcyā
★	ikura	pira ?	pira ?	pira	pisa
★	are ga	yasa			
	4 親 属				
◇	papa	yaba ?		yaba	yaba
◇	mama	yaya ?		yaya	yaya(aya)
△	akong	yutas		yutas	uba
△	ama	yaki ?		yaki	uya
★	kioray				msswe
◇	koko	bsuyan mlikuy		qsu(z)yan mlikuy	suyan mlikuy
◇	ciecie	bsuyan kneril		qsu(z)yan kneril/knerin	suyan knerin
◇	titi	ssuwai mlikuy		sswe mlikuy	sswe mlikuy
◇	meymey	ssuwai kneril		sswe kneril/knerin	sswe knerin
★	ozisan	mama ?		mama	mama
	5 人 物				
◎	suley	sQuleQ		sqliq	cyoli
◎	likuy	mlikuy		mlikuy	mlikuy
◎	nerin	kneril		kneril, knerin	knerin
◎	b'kis	mkis		bnkis	bnkis
◎	lai	laQi ?		laqi	la'iy
◎	lpyung	lpiung	lpyung	rangi	lpyung
★	sinsiy			sinsiy pbaq biru	mrhuw pcba'
★	seyto			seto pbaq biru	mowas biru

中 国 語	日 本 語	Japanese in Atayal	English	note : 補足説明
你們	あなたたち	anta tachi	you(pl)	
他	彼(自分)	jibun	he	
他的	彼の(自分の)	jibun no	his	
這個	これ	kore	this	
那個	それ；あれ	are	that	
這裡	ここ；こっち	kocchi	here	
誰	誰	dare	who	
誰的	誰の	dare no	whose	
哪裡；何處	どこ	doko	where	
什麼時候	いつ	itsu	when	
怎麼；為什麼	なに(どうして)；なぜ	nani(da?)	what; why	
什麼	なに	nani	what	
多少	いくつ；いくら	ikura	how many	
那一個	それ；あれ	are(ga)	that one	
爸爸	父		father	Chinese
媽(稱呼)	母		mother	Chinese
祖父	祖父		grandfather	台灣語「阿公」
祖母	祖母		grandmother	台灣語「阿嬤」
兄弟姊妹	兄弟(姊妹)	kyo : dai	sibling	
哥哥	兄		elder brother	台灣語とも類似
姊姊	姉		elder sister	台灣語とも類似
弟弟	弟		younger brother	台灣語とも類似
妹妹	妹		younger sister	台灣語とも類似
叔叔	叔父；伯父	ojisan	uncle	
人	人		person	
男生	男		man	
女生	女		woman	泰雅語「knerin」參照
長輩；老人	老人		old man	
小孩	子ども		child	
朋友	友達		friend	
老師	先生	sensei	teacher	
學生	学生	seito	student, pupil	

出自	泰雅語寒溪方言(web 資料2007年10月現在)	土田滋 1980 調査 寒溪方言	李千發 1994-1995 調査 寒溪方言	泰雅語スコレック方言(web 資料)	泰雅語宜蘭縣ツォレ方言(web 資料)
★	isya			sinsiy pkita nbu	phgup mga'in
★	kangkoku				pklahan- nya-mga'in
	6 人 名				
★	namay	lalu ?		lalu	lalu
◎	Wasiq			Wasiq	Yayut
◎	Yaway				Yawey
◎	Pusing			Pusing	Yumin
◎	Lawa				
	7 身體部位				
◎【★】	tunux 【atama】	tunux		tunux	tunux
◎	yonux	yunux		snonux	yunux
◎	de'es	r ? iyas	r ? iyas	rqyas	reyas
◎	roye	roye ?		roziq	ro'iy
◎	papak	papak		papak	papak
◎	nguhuw	nguhu ?		nguhuw	nguhuw
◎	uwah	n ? uwa ?		ngwaq	ngowa
◎	'nux	g ? nux	? nux	g'nux	g'nux
◎	hei			hi	hi
◎	'ba	? ba ?		qba	'ba
◎	kakay	kakay		kakay	akey
	8 動物				
◎	hoyin	huil		hozil, hozin	hoyin
◎or△	ngyaw	ngiaw		ngyaw	'ngyaw
◎	biyok	biyuk		bzyok	biyak
◎	kacing	kacing		kacing	kating
◎	mit	mit		mit	mit
◎	ngta	ngta ?	ngta ?	ngta	welung
◎	ulih	Quleh	? ulih	qulih	'cyux
◎	yungay	yungay		yungay	yungey
◎	oli	Quli ?	? oli ?	qoli	oliti
◎	pit	piit		qhniq	piyit
	9 植物水果				
★	hana	phpah		phpah	phpah
◎	'man	k'man		k'man	k'man
◎	qhoniq	khuniQ		qhoniq	khoni
◎	ngahi	ngahi ?		ngahi	ngahi
◎	abaw	? abaw		abaw	
◎	pagay	pagay		pagay	pagey
◎	etun	tQeitun	tqitun	qetun	tetun

中 国 語	日 本 語	Japanese in Atayal	English	note : 補足説明
醫生	医者	isha	doctor	
護士	看護師	kangofu	nurse	看護婦
名字	名前	namae	name	
女子名	女子名		female name	
女子名	女子名		female name	
男子名	男子名		male name	
女子名	女子名		female name	
頭	頭	atama	head	我的頭疼
頭髮	髮		hair (head)	
臉；面	顔		face	
眼睛	目		eye	
耳朵	耳		ear	
鼻子	鼻		nose	
嘴巴	口		mouth	
牙齒	齒		tooth	
身體；人	体；人		body; person	
手	手		hand	
脚	足		leg	
狗	犬		dog	
猫	猫		cat	擬音語起源
猪	豚		pig	
牛	牛		cow	
羊	羊		sheep	
雞	鶏		chicken	
魚	魚		fish	
猴子	猿		monkey	
老鼠	鼠		rat, mouse	
鳥	鳥		bird	
花	花	hana	flower	
草	草		grass	
樹	木, 樹		tree	
地瓜	サツマイモ		sweet potato	
葉子	葉		leaf	
稻米	米		rice plant	
玉米	トウモロコシ		corn	

出自	泰雅語寒溪方言(web 資料2007年10月現在)	土田滋 1980 調査 寒溪方言	李壬癸 1994-1995 調査 寒溪方言	泰雅語スコレック方言(web 資料)	泰雅語宜蘭縣ツォレ方言(web 資料)
◎	puqoh	goQoh	guquh	guqoh	geloh
★	mikang	? ciung		bitak	'cyung
★	momo	bukil		bukil	yimux
10 物 品					
★	hon			biru	biru
★	enpic			enpit	pbrwan
◎	ssom			ssom	scom
★	handai			hanray	hanray
◎	teykan		t ? man, tman	thekan	lngan (tman)
◎	pila	pila ?		pila	pila
◎	lukus	lukus		lukus	lukus
★	kasa			ruku	luku
★	lengwa			lengwa	prayan kkyalan
◇	lancio				
★	bowru			mari	boru
11 山川建築					
★ ?	mayah	hlahuy, rgiax		rgyax	rgyax
★	kawa	lliung			
◎	hongu				
◎	mayah	mayah			
◎	ngasan	ngasal		ngasal, ngasan	sali'
★	gako			pqwasan biru	pn'wasan-biru
★	kokuming gako				pn'wasan-la'iy
12 自然景觀					
◎	wagi	wagi ?		wagi	wagi
◎	byacing	biacing		byacing	byating
◎	benah	bingah	bengah	bingah	bengah
★	tenki	kayal		kayal, kayan	kayan
◎	behuy	behoy			
◎	yulung	yulung		yulung	yulung
◎	hongu utux			hongu utux	hongu-lutux
13 時 間					
★	nansay	kawas		kawas	kawas

中国語	日本語	Japanese in Atayal	English	note: 補足説明
香蕉	バナナ		banana	
橘子	みかん	mikan	orange, mandarin	
桃子	桃	momo	peach	
書	本	hon	book	
筆	鉛筆	enpits[u]	pencil	
橡皮擦	消しゴム		eraser	
桌子	テーブル(飯台); 机	handai	table, desk	
椅子	椅子		chair	
錢	金		money	
衣服	服		clothes	
雨傘	雨傘	kasa	umbrella	
電話(談話)	電話	denwa	telephone	
籃球	バスケットボール		basketball	Chinese
球	ボール	bo:ru	ball	(< Jap. < Eng.)
山	山	yama	mountain	(by metathesis)
河; 谷	川; 河; 谷	kawa	river; valley	
橋	橋		bridge	
田園	田; 畑		cultivated field	
家	家		house	
學校	学校	gakko:	school	
國民小學	国民小学校	kokumin gakko:	elementary school	
太陽	太陽		sun	
月亮	月		moon	
星星	星		star	
天; 天氣	空; 天氣	tenki	sky; weather	
風	風		wind	
雲; 霧	雲; 霧		cloud; fog	
彩虹	虹		rainbow	
年; 歲	年; 歲	nan-sai	year; age	

出自	泰雅語寒溪方言(web 資料2007年10月現在)	土田滋 1980 調査 寒溪方言	李千癸 1994-1995 調査 寒溪方言	泰雅語スコレック方言(web 資料)	泰雅語宜蘭縣ツォレ方言(web 資料)
★	maynici			ryax	krryax
★	kyo	souni ?	soni ?	soni	soni
★	kino	shera ?	s-heira ?	shera	hesa
★	asta	suxan	suxan	suxan	cuxan
◎	sasan	sasan	sasan	sasan	sasan
★	bang	gbian	hngan	gbyan	gbyan
★	ima	misu?			micu
★	nanzi			tmucing, spung	
★	sugu				
14 事件(動詞)					
★	koy	muwah		uwah, mwah	uwah
★	ike	musa ?		usa, musa	musa
★	ita mo	wayal la		wayal	wayan
★	tita			mnwah	mwahan
★	iku			mosa	
★	letikoy			mhtuw	mhtuw
★?	sta				mbinah
★	okire 【okiru】	mttuli ?		mtuliq	tuli'
★	nere	m'abi ?		m'abi	m'abi
★◎★ ◎	tabe sasan no mami	mane ?		maniq	mani' (吃)
★★★ ◎	tabe bang no mami			maniq	
★	bengkio	lmpu ? (read)		mqwas biru	mowas biru
★	uta 【uta suru】	mQowas		mqwas	mowas biru
★	yugi 【yugi suru】			mzyugi	myugi
◇	hwatu			matas biru	matas biru
★	bioki	mnbu ?	nbu ?	mnbu	mga'in
★	itay	mxal	m-xal	mxan	ga'in
◎	mapa'ba				tmapak 'ba
◎	cisan	mcisal			mtisan

中 国 語	日 本 語	Japanese in Atayal	English	note : 補足説明
天 ; 常常	日, いつも	mai-nichi	day; always	
今天	今日	kyo:	today	
昨天	昨日	kino:	yesterday	
明天	明日	ash[i]ta	tomorrow	
早上	朝		morning	
晚上	夜 ; 夕方	ban	evening	
現在 ; 正在	今 ima, している	ima	now; be --- ing	
時 ; 點鐘(敲.)	時 ; 何時	nan-ji	time; what time	
很快 ; 不久	すぐ	sugu	soon; not long	
来	来る kuru	koi	come	(imp.)
去	行く iku	ike	go	(imp.)
去了	行った; もう行った mo itta	mo itta	already gone	語順にアタヤル語投影
去過	行った; ~ていた te-ita	~te ita?	went	
要去	行く iku; 行くだろう iku-daro:	iku	will go	
出来	出てくる dete-kuru	dete-koi	come out	(imp.)
回来	帰る, 戻る	sita ?; kita ?; or (kima-)s[i]ta ?	return, come back	した(?), 来た(?), (来ま)した(?)
起床	起きる okiru	okire 【okiru】	wake up	(imp.) 【起床】
睡覺	寝る neru; 眠る nemuru	nere	sleep	(imp.)
吃早餐	食べasan(朝)の mami (飯)=〈朝御飯を食べる taberu〉	tabe/no/	eat breakfast	(imp.)
吃晚餐	食べ 晩 の mami(飯)= 〈晩 ban 御飯を食べる taberu〉	tabe/ban no/	eat supper	(imp.)
讀書	勉強する benkyo:suru	benkyo:	study	
唱歌	(歌を)歌う (uta wo) utau	utae	sing a song	我會唱歌
跳舞	踊る odoru (cf. noun. Yu: gi)	yu: gi 【yu: gi (wo) suru】	dance	遊戲 【跳舞】
畫圖	絵を描く		draw pictures	Chinese
生病	病気になる byo: ki ni naru	byo:ki	sick, ill	
疼痛	痛い itai	itai	painful	
拍手	拍手をする		clap one's hands	
玩, 要	遊ぶ		play	

出自	泰雅語寒溪方言(web 資料2007年10月現在)	土田滋 1980 調査 寒溪方言	李千癸 1994-1995 調査 寒溪方言	泰雅語スコレック方言(web 資料)	泰雅語宜蘭縣ツォレ方言(web 資料)
★	lengwa				
★	suwale	mtama ?	tama ?	tama, thzyuk	tama
★	okile	ms ? rux	s ? rux	tuliq	tuli'
★	ara	mahuQ		mahoq	mahu
★	moti			maras	
◎	tapuy	thapuy			
◎	tiyaw	? umah			
◎	lusa	mlata ?	q-m-aluk		
★	'may	kbaQ, baQon		baq, baqun	kba'
★	yube	kmayal		kmal, kman	kmayan
★	kiku	mung		mung, pung	mung
★	miye tala	mita ?		ktan	tegan
★	miye tita	mita ?		mita	mita
★	ski	ksliQ		smoya	sl'an
★	mate	mnaga ?	naga ?		mnaga
★	ysio	mglu ?			mgluw
◎	walax	Qmualax		mqwalax	m'walax
◎	tuway				
◎	skruiy		? su ? i ?	qsuqi	
◎	thmut			hmut	
★	cka【～te cka tikang】			hmiriq	
◎	bla	miasa ?		blaq	bley
◎	lokah	lokah (strong)			
◎	giboq			mziboq	mybuw
★	aligato	mahuay su?		mhuway	mhowey
◎	sgagay			sgayat, sgagay	sgagey ta la
◎	qalux	mQalux	? alux	mqalux, qalux	mkalux
◎	talax	mtalah		mtalah, talah	mtalah
◎	labu	mlabu ?		plquy	mlabuw
◎	piyux	piux		cingay	piyux
◎	myasa	miasa ?		betunux	myasa tegan
◎	m'es			mqas	m'es
◎	elang	mQaylay		mqelang	m'elang
◎	lokah tiyaw	? ngiyat		qnzyat	mngiyat
◎	'suw	y ?su ?		r'suw, usuw	y'suw
◎	toyux	? ruyux		kruzuyux	ruyux
★	takay	baweQ		wagiq	bawi
★	higwi	rroQ		rroq	rrow

中国語	日本語	Japanese in Atayal	English	note: 補足説明
打電話	電話をする denwa o suru	denwa	telephone	電話
坐	座る suwaru	suware	sit	(imp.)
起立	立つ; 起きる okiru	okire	stand up	(imp.)
洗(衣服)	洗う arau (服を洗う)	arae	wash (clothes)	(imp.?)
帶	持ってくる mottekuru	o-mochi!	bring	(imp.)
煮	料理する		cook	
工作	働く; 仕事をする		work	
打獵	獵をする		hunt	
會	できる dekiru	umai(=fine)	can	うまい
說	言う iu; yuu	ie; yuwe	say	ゆえ(imp.)
聽	聞く; 聴く kiku	kiku	listen, hear	
看; 看起	見る; 見える	mie tara	see	見えたら
看; 探視	視る; 観る	mie teita	look	見えていた
喜歡; 愛	好き; 愛する	s[u]ki	like, love	
等	待つ matsu	mate	wait	(imp.)
一起	一緒に	issho	together	
下雨	雨が降る		rain	
慢步	ゆっくり		slowly walk	
遲到	遅い		late	
隨便(乱)	随意			
浪費	使う tsukau; 無駄	ts[u]kae, ts[u]kau?	use, waste	【用钱不可隨便浪費】
好	よい		good	
加油	がんばれ		cheer up!	
早	早い		early	
謝謝	ありがとう	arigato:	thank you	
再見	さようなら		good bye	
黑色	黒		black	
紅色	赤		red	
白色	白		white	
多	多い		many	
美麗; 好看	美しい		beautiful	
快樂	幸せな		happy	
懶惰	怠惰な		lazy	
勤勞	勤勉な		diligent	
重	重い		heavy	
長	長い		long	
高	高い	takai	high, tall	
矮	小さい; 低い	hikui (=not tall)	short (not tall)	

出自	泰雅語寒溪方言(web 資料2007年10月現在)	土田滋 1980 調査 寒溪方言	李壬癸 1994-1995 調査 寒溪方言	泰雅語スコレック方言(web 資料)	泰雅語宜蘭縣ツォレ方言(web 資料)
★	aru	maki ?		cyux, maki	kyan
★	nay	? ungat	? ungac	ungat	ini kaki
	15 其 他				
★	so	? aw		aw	aw
★	cigaw			iyat	iyat
★	tikang	kaa	laxi	laxi	laxi
★	mo			uzi	uy
★	honto			balay	baley ci
★	kosi	cikah		cikay	cikey
◎	ga	ga		ga	ga(接続詞)
◎	ga			ga	
★	ima			cyux, nyux	maki, cyu
★	iro			iro	iro
◎	tiyaw				pintyagan
★	unro				miyiy

表2 アタヤル語寒溪方言に混在する日本語表現——「文型」

二 生活会話百句

I 問候道別

會話1 問候語

A: anta bla ga? 你好嗎?

B: waha bla, anta ga? 我很好, 你呢?

A: waha mo bla, aligato! 我也很好, 謝謝你。

會話2 問候語

A: giboq anta! 你早!

B: anta mo giboq! 你也早!

會話3 道別語

A: sgagay! 再見了!

B: sgagay! 再見了!

(初校時中間部分を割愛)

中 国 語	日 本 語	Japanese in Atayal	English	note : 補足説明
有	ある	aru	there is	
不在；沒有	ない nai	nai	there is not	
是(的)	そう sou；はい	so:	yes	
不是	違う tigau；いいえ	chigau	no	
不要(不可)	するな；だめ(～te- ikan)	～te ikan (=do not ～)	don't !	～ていかん
也	も mo；また	mo	also	
真的；非常	本当に honto；非常に	honto:	really, very	
一下；一點	少し sukoshi	s[u]koshi	a little	少し
主題標記	主題標記		topic marker	
嗎；呢	嗎；呢		question marker	
在(助詞)	いる；今 ima (の状態)	ima	be	今
顏色	色 iro	iro	color	
工作(常要做的事)	仕事		work	
運動	運動 undoo	undo:	exercise	

IV 祈使句

會話 47 祈使句

okile ! 請起立 !

tame ste yube ! 請說 (說說看)。

tame ste kiku ! 請聽 (聽聽看)。

suwale ! 請坐下 !

會話 48 祈使句

A : koy, sasan no mami tabe ! 來, 我們吃早餐 !

B : so, sasan no mami tabe. 好 ! 我們吃早餐 !

會話 49 祈使句

A : mate waha ni. 等我一下 !

B : so, mate ru anta ni. 好, 我等你。

會話 50 否定祈使句

gako skruy tikang. 上學不可遲到。

pila thmut te cka tikang. 用錢不可隨便浪費。

Hanxi Dialect: A Japanese-based Creole in the Formosan Austronesian language ‘Atayal’

ABE Seiya, TSUCHIDA Shigeru, NIIDA Sumino

Key words: Atayal (Kanke or Hanxi dialect), Japanese-based Creole, Austronesian in Taiwan (Formosa), endangered languages, indigenous language comprehension tests

This paper presents the finding that the Hanxi (Kanke) dialect of the Austronesian language Atayal is the Japanese-based version of Creole. The Hanxi dialect is one of the various dialects of Atayal, an indigenous language of Taiwan. In the Hanxi dialect, with respect to both lexicon and grammar, there is a considerable amount of Japanese blended with indigenous forms. Firstly, the lexicon appears to be a melange of Japanese, Mandarin Chinese, Taiwanese and Atayal. In addition, it appears that the grammar is essentially a blend of Japanese and Atayal. Considering this, it can be assumed that the Hanxi dialect is a Japanese-Atayal combination. This has been reported on the official website of the Council of Indigenous Peoples, Executive Yuan. Many generations consider this hybrid language as their mother tongue. This implies that the Hanxi dialect can be regarded as a completely developed Creole. Information on the Atayal language—with regard to basic sentence patterns and vocabulary—is available on the official website given below.
[http://140.122.109.156/new/\(or http://iel.apc.gov.tw/\)](http://140.122.109.156/new/(or http://iel.apc.gov.tw/))